

オジロワシ

Haliaeetus albicilla

タカ科・冬鳥（一部留鳥）



オジロワシ

名前の由来

オジロワシは「尾の白い鷲」の意。ワシは悪い鳥なので「悪し(あし)」から、車輪状に飛ぶので「輪如(わし)」から、動きが敏捷なので「捷(はし)」から、など諸説ある。漢字名：尾白鷲

特定種

文化財保護法：天然記念物

種の保存法：国内希少動植物種

国レッドリスト（2007）：絶滅危惧 I B 類（EN）

北海道レッドデータ：絶滅危惧種（En）

形態的特徴

全長（くちばしの先から尾の先まで）オス80cm、メス95cm、翼を開いたときの端から端までの長さ180～230cm。トビよりもずっと大きい。

成鳥は、尾が白く短いくさび形をしている。全体的に褐色。

頭部の色が淡いものが多い。くちばしと足は黄色い。

飛んでいるとき、翼は幅広く四角い感じに見える。

若鳥の尾は白くなく黒褐色で、くちばしも灰色っぽい。

声：繁殖期以外はほとんど鳴かない。

繁殖期には巣の近くで警戒するとき「カッ、カッ、カッ」と鳴く。また、けんかをするときには「クラッ、クラッ、カカカカッ」と鋭い大きな声で鳴くという。

飛び方：ゆっくりと羽ばたき、時々滑空もしながら直線的に飛ぶ。翼を広げて円を描くように飛ぶこともある。

餌を捕るときには、水面を低く飛び脚を垂らして魚を捕まえたり、上空から肩をすぼめて急に高度を下げ地上や氷上の鳥などを捕らえたりする。

類似種と区別点：オオワシ。

オオワシは成鳥では肩の部分の白色が非常によく目立つ。

また、オオワシの尾が明瞭な長いくさび型だが、オジロワシでは短いくさび型。

若鳥は似ているが、オオワシのくちばしは大きく目立つ。



オジロワシ。白く短い尾、小さめのくちばし、四角っぽい翼



オオワシ。白く長い尾、白い肩(翼前縁)、長く幅広い翼

生息環境・分布

河川沿い、湖沼、海岸沿いに生息するが、川沿いに内陸にも入る(日本野鳥の会十勝支部、1983)。十勝には11～3月にくる冬鳥であるが一部夏にもとどまる。

分布：ヨーロッパとアジアの亜熱帯・温帯で繁殖し、温帯から熱帯にわたって越冬する。

日本では冬鳥として北海道、東北地方、日本海沿岸に渡来

する。北海道では一部留鳥。

北海道には冬鳥として渡来するが、一部は夏にもとどまり少数が繁殖している。主に東部と北部で繁殖する。

十勝には冬鳥として渡来するが、一部は夏にもとどまり少数が繁殖している。河川沿い、湖沼、海岸沿いに生息する。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
十勝出現期	[Red bar from March to November]											
サハリン以北(繁殖期)	[Green bar from March to November]											
	[Pink bar from April to October]											

少数がとどまり繁殖

繁殖

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) ウシ・タカ

食性・他生物との関わり

海鳥やカモ類などの鳥類、魚類、哺乳類（アザラシの幼獣など）を食べる。動物の死体なども食べるが、明らかに腐った物は食べない。

餌を捕るときには、水面を低く飛び足を垂らして魚を捕まえたり、上空から肩をすばめて急に高度を下げ地上や氷上の鳥などを捕らえたりする。

捕食者であり、食物連鎖の頂点にたつ種のひとつ。成長してしまえば他の生物に襲われることはあまりない。



魚を求めて川に飛来するオジロワシ

繁殖生態

繁殖期は3～8月、一夫一妻で繁殖する。

1～2月になるとつがいはいは求愛行動を始める。(→興味深い話の項参照) 繁殖期になるとつがいごとになわばりを持つ。繁殖地は海岸近くか付近に川や湖沼のある森林で、ミズナラ、ダケカンバ、トドマツ、エゾマツなどの古巣を補強しながら、大きな皿形に巣をつくる。

巣作りは一年中行われるが、産卵期の3月になると活発になるという。巣の補強はオスメスともに行うが、枝を積み上げるのは主にメスが行うという。

3月下旬に1～2（まれに3～4）卵を産む。主にメスが卵を抱くが、メスが巣を離れるとすぐにオスが代わりをつとめるといふ。

37～40日でヒナがかえり、ヒナは全身に淡灰色の幼綿羽が密生する。オスメス共同でヒナを育てる。

70～90日で巣立つ。巣立ちまでの期間は個体によって大きく異なる。また巣立ち後も時々巣に戻って親から餌をもらいうという。

興味深い話

■求愛行動としては、オスメスがそれぞれ枝などにとまって向かい合い、オスが翼を広げて頭を上げるもの、オスが頻りにメスの上を飛んだり「クワッ、クワッ、クワッ」と鋭く鳴きながら追いかけてあうものなどがある。

■さらに、メスが300mほど上空で突然仰向けになり、オスに向かって足指を握ったり広げたりして見せ、そこへオスが上空から突進して互いに爪を絡ませ、海面すれすれまで落下する、という求愛行動も繰り返されるという。

■何らかの原因で親がヒナに餌を与えずにいると、強い方のヒナが弱い方のヒナを殺して食べることがあるという。

■オオワシが極東に分布しているのに比べ、オジロワシは広く分布している。北海道には冬鳥として渡来するものが殆どだが、少数は海岸や内陸湖沼などで繁殖している。国外ではユーラシア大陸の北部と東部、アイスランド、グリーンランド、サハリン、千島列島などで繁殖しており、国後島ではトビよりも多いが、西欧では絶滅寸前である。

■十勝地方のアイヌ語名は不明。

配慮事項

シカ猟後の残された死体につく事があり、銃弾による鉛中毒などが懸念されている。

少数が海岸や内陸湖沼などで繁殖しているが、その様な場合にむやみに近づく繁殖に悪影響を与える可能性がある。

参考文献

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」高野伸二 編、浜口哲一・森岡照明・叶内拓哉・蒲谷鶴彦 著、山と溪谷社 1985 (1995 2版21刷)
「原色日本野鳥生態図鑑(陸鳥編)」中村雅彦・中村登流、保育社 1995
「北海道鳥類目録改訂2版」藤巻裕蔵、帯広畜産大学野生動物管理理学研究室 2000
「野鳥ブックスー2 フィールドガイド日本の野鳥」高野伸二・谷口高司・森岡照明・叶内拓哉、(財)日本野鳥の会 1982 (1994 増補版7刷)
「日本動物大百科 第3巻 鳥類I」日高敏隆監修、平凡社 1996

「図説 日本鳥名由来事典」菅原浩・柿澤亮三 編著、柏書房 1993
「名前といわれ 日本の野鳥図鑑① 野山の鳥」国松俊英、偕成社 1995
「増補改訂版 日本鳥類大図鑑 Vol. II」清棲幸保、講談社 1978

日本野鳥の会十勝支部 (1983) 北海道十勝地方におけるオジロワシとオオワシの分布. *Strix*, 2 : 53-58.

岩見恭子・川辺百樹・石毛千栄子 (1998) オジロワシのカラマツ植林地での繁殖. *ひがし大雪博物館研報*, 20 : 75-78.
森信也 (1980) オジロワシの繁殖生態. *鳥*, 29 : 47-68.

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ